

## 「改善報告書検討結果」について

本学では、(財)大学基準協会による 2005(平成 17)年度相互評価ならびに認証評価受審の結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。その中で、20 項の助言、3 項の勧告を受け、その改善に向けて取り組んでまいりました。

勧告のひとつ、「財務」については大学基準協会の要請により、2006(平成 18)年 7 月末に改善報告書を提出したところ、翌年度からの改善報告書は提出不要とのこととなりました。

もうひとつの勧告である「学生の受け入れ」につきましても、2009 年 7 月に改善報告書を提出し、今後の改善経過について再度報告を求める事項として、「学生の受け入れ」について、人間社会学部における収容定員に対する在籍学生数比率が 1.31 と依然として高いので、次回大学評価申請時に再度報告されたい。」との検討結果をいただきました。これを真摯に受け止め、さらなる改善に向けて取り組む所存です。

また、本学の自己点検・評価の取り組みを綴った「2009 年度日本女子大学 自己点検・評価報告書」を掲載いたしましたので、ぜひ、ご覧ください。

日本女子大学は、今後とも不断の自己点検・評価活動をとおして、創立者・成瀬仁蔵の「女子を人として、婦人として、国民として、教育する」という建学の精神に基づき、教育研究の質の維持・向上のための取り組みを続けてまいります。

日本女子大学学長  
蟻川 芳子